

社会福祉学科

社会福祉 専攻

科目名: 表現アート演習 I			担当教員 氏名: 北澤 晃		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次 後期	専門科目	演習	選択	
実務経験を用いてどのよ うな授業を行っているか: アートプログラムを用いた意味生成ケアの現場実践(臨床美術士としての実務経験)にもとづいて、様々な状況・状態 の方々に、アートに触れることでの多幸感を味わうことができるように視点の提供をする。					
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
他者とのコミュニケーションの場において、様々なアートプログラムに取り組み楽しむ。主に色鉛 筆やオイルパステルなどの描材を用いたプログラムを体験し、表現の楽しさについて感じ、考 え、行為することで、意味生成の表現を捉えなおす。				・アートプログラム・脳の活性化 ・「つくり、つくりかえ、つくる」(意味生成) ・コ ミュニケーション ・他者理解 ・存在論的人間観・ナラティブ	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 7. 8.	
A 知識・理解力	アートプログラムの成り立ちを理解する。				
B 専門的技術	色鉛筆・オイルパステルを中心画材として楽しんで表現する。				
D 問題解決力	表現の楽しさについて、感じ、考え、行為することで意味生成の表現を捉えなおす。				
H コミュニケーション力	表現を通して自己への理解を深めつつ、他者の表現を理解しようとする姿勢をもつ。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート: 70 %	発表: 30 %	実技試験:	%
特記事項: アクティブラーニングによる学びを重視することから、現場実践をするための臨床美術士セッション体験会に加わりながら、実践的に 学ぶ。『レポート 70%』は、各課題の学びをまとめたファイル(ポートフォリオ)である。『発表 30%』は、各回の授業等における各自の振り返り のコメントである。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 各プログラムごとに学びを整理・記録したファイルを作成し⑬の授業にて提出。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 毎回の授業においてコメントする。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な 時間(分)	
①【ガイダンス】学習目標、学習内容、アートプログラムについて			振り返りとポートフォリオ作成	30	
②アートプログラム1演習			振り返りとポートフォリオ作成	30	
③アートプログラム1演習の振り返り			振り返りとポートフォリオ作成	30	
④アートプログラム2演習			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑤アートプログラム2演習の振り返り			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑥アートプログラム3演習			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑦アートプログラム3演習の振り返り			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑧アートプログラム4演習			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑨アートプログラム4演習の振り返り			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑩アートプログラム5演習			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑪アートプログラム5演習の振り返り			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑫きときとアート塾演習A			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑬きときとアート塾演習Aの振り返り			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑭自己の学びの総括Ⅰ部(発表)			振り返りとポートフォリオ作成	30	
⑮自己の学びの総括Ⅱ部(発表)			振り返りとポートフォリオ作成	30	
使用テキスト: 特に設定しない。				その他参考文献など: 北澤晃『造形遊びの相互行為分析』せ せらぎ出版※謹呈する。	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):【実習費】一人3,000円(第2回目に徴収します。)18色の色鉛筆とオイルパステルは各自で用意 してください。【その他】臨床美術士の有資格者が取り扱った臨床美術プログラムでセッションを実施する場合、各自プログラムを購入する必要 があります。【臨床美術士資格更新制度単位】出席の都度2単位					